

第2学年「てばっとボール」－ゲーム－

東温市立拝志小学校 森下 聡太

近年、子どもたちはベースボール型ゲームの遊びの経験が不足しています。そのため、教材やルールを簡易化することで、子どもたちが主体的にベースボール型ゲームに取り組めるように工夫しました。

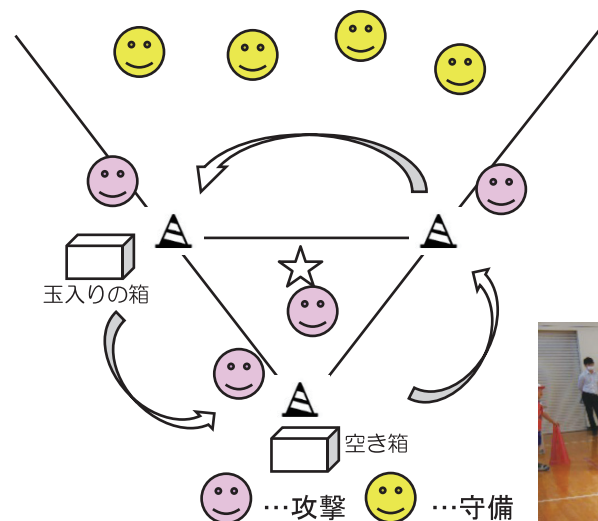
○ 単元計画

時	第1・2時	第3・4時	第5時	第6・7時
はじめ	○ 準備運動（とうおんタオル体操）			
	○ セルフキャッチ ○ パートナーキャッチ	○ かつとばしゲーム	○ ドリル学習 ・ くるくるコーン ・ ティーバッティング ・ スロー&キャッチ	
なか	てばっとボール（はじめのゲーム→規則を工夫したゲーム→リーグ戦）			
おわり	○ 振り返り ○ 感想発表 ○ 整理運動			

○ 運動のポイント（単元を貫く主運動）

基本のルール

- ① 三角ベースで行う。
 - ② 常に満塁状態で行う。
 - ③ 攻撃チームは、☆の場所からボールを手で打つ。
 - ④ 守備チームは、打球を捕った子どもの後ろに、チーム全員が並び「アウト」と言いながら座る。
 - ⑤ 攻撃チームは、打者がボールを前に飛ばした後、走者は「アウト」とコールされるまで三角ベース上を走り続ける。その際に、箱からお手玉を取って、次の塁にある空き箱にお手玉を入れると得点となる。守備チームが「アウト」コールするまでに入れたお手玉の数が得点となる。
- ※ 打者一巡で攻守交代



旗立台の棒に水道管を保温するためのチューブを取り付けたティーです。そのティーの上にカップを置き、柔らかく大きなボールを手で打ちます。



道具を使って打つのではなく、自分の手で、止まっているボールを打ちます。どんな子どもでも、すぐに強く遠くまで打てるようになり、打つ喜びを味わいやすくなります。



子どもの実態に合わせて、子どもと話し合いながら塁間を縮めたり、アウトの方法を変えたりするなど規則を工夫することで、全員が主体的にベースボール型ゲームの楽しさを味わうことができます。

第3学年「ちょっとずつ幅跳び」－走・跳の運動－

宇和島市立鶴島小学校 濱本 圭一

宇和島市小学校体育連盟では、陸上運動系の走・跳の運動領域の研究を行っています。幅跳びの課題である踏切り動作に焦点を当てた授業実践を紹介します。

○ 単元計画

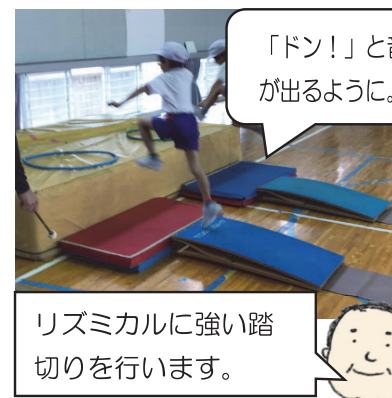
補助運動で踏切り動作や着地までの一連の動きを身に付け、「ちょっとずつ幅跳び」を楽しみます。

時	第1時	第2～6時
はじめ	○ 集合・整列・挨拶・健康観察 → ○ 準備運動	
なか	○ オリエンテーション ○ 試しの運動（記録測定）	○ 補助運動 （パラシュート・ごみ袋跳び・しまなみジャンプ） ○ ちょっとずつ幅跳び
おわり	○ 本時のまとめ・整理運動・片付け・挨拶	

○ 運動のポイント

補助運動（3歩助走で行います。「レッ・ツ・ゴー！」の掛け声で。

・パラシュート



・ごみ袋跳び



・しまなみジャンプ



○ ちょっとずつ幅跳び

自己ベスト記録から－50cmの記録を基準記録とし、その基準記録（2回以降は基準記録か基準記録を更新した記録）より遠くへ跳び、ちょっとずつ記録を更新していきます。段階的に記録を更新していく中で、助走のスピードやリズムを調節し、動きを修正しながら、最終的にできるだけスピードを上げた助走から跳ぶことにつなげる学習です。また、個人ではなくチーム対抗戦とすることで、集団的達成の場を設定し、みんなで運動する喜びを味わわせていきます。

5歩助走で行います。「1・2・レッ・ツ・ゴー！」の掛け声で。



名前	1回目	2回目	3回目	合計(4回の平均)
1	1m 10cm	1m 50cm	1m 80cm	3
2	1m 20cm	1m 40cm	1m 60cm	3
3	1m 10cm	2m 10cm	1m 50cm	2
4	1m 18cm	2m 00cm	2m 20cm	2

チームの得点は 12 点です！

他のチームと競って楽しかったね。

前の記録よりよくなったね。